

42級  
1  
回目

# 実践問題

点

〈時間20分〉

学習した日 月 日

1 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

鮎太と祖母りょうの二人だけの土蔵\*どぞうの中の生活に、冴子さえこという十九さいの少女がとつぜんやって来て、同居するようになったのは、鮎太が十三になった春であった。

冴子という名前は、それまでに祖母の口からたびたび聞いていたが、鮎太が彼女のすがたを見たのは、<sup>①</sup>その時が初めてであった。

鮎太は、<sup>②</sup>なんとなくいけないものが、<sup>③</sup>静穏な祖母と自分の二人だけの生活をかくらんしにやって来たような気がした。そうした冴子への印象は、彼女の初対面の時の印象から来たものか、冴子という少女に對する村人の口から出る、うわさがそうした余りかんばしくもないもので、それがいつとはなしに、鮎太の耳に入ってきたことによるのか、それははつきりしなかった。あるいはその両方であったか知れない。

その日、鮎太が学校から帰って来ると、屋しきと小川でさかいして、屋しきより一だん高くなっている田園のあぜ道を両ひじを張るようbにして、ハーモニカをふいて歩いている一人の少女のすがたが眼めに入った。少女と言っても鮎太よりずっと年長である。

村では見かけないむすめであった。うすら寒い春の風におかっぱの

髪かみをはいごに飛ばせ、はいごで大きくむすんでいる黄色いへこおびの色が、鮎太の眼には印象的であった。

鮎太もあぜ道を歩いて来たが、その自分とはずっと年長の少女と正面からぶつかるのをさけて、あぜ道の中④から小川をこえて、土蔵の横手の屋しき内へと飛びおりた。(中略)

鮎太がその少女を見守っているうちに、彼女は次第しだいにこちらに近寄って来たが、かきの木に登っている鮎太のすがたを眼に留めると、視点をすえたような見入り方で、 鮎太の方を見た。その黒い大きい眼が鮎太をおどろかせた。一体この少女は何者だろうかと思った。もしかしたら、冴子かも知れない。鮎太はふとそう思った。

冴子という半島のとつたんの港町の女学校へ行っている少女が祖母の身内にあり、その少女の余りかんばしくもないひょうばんは、この村から同じ女学校へ通っている二、三人のむすめたちによって、この村へ伝えられていた。

鮎太は冴子という年長の、祖母の身内だという少女を、何となく美ぼうの少女として想像していた。彼女に関するうわさの性質からすると、彼女はどうしても美ぼうでなければならぬようだった。

鮎太はかきの木からおりると、土蔵の中へかけこんだ。あのようaに美しい少女は、冴子でなければならぬと思ったし、あのようaに不良は(鮎太にはハーモニカをふいている少女が、そう見えた)、冴子以外にはないだろうと思った。(井上靖「あすなる物語」より)

\*土蔵Ⅱ四面を土などで厚くぬり固めた倉庫。

\*へこおびⅡ男の子や子どもがしめるおび。

(1) 線 a と d のひらがなを漢字に直し、漢字には読みがなを書きなさい。(5点×4)

(2) 「かんばしくない」の意味として最も適切なものは、どれですか。記号で答えなさい。(5点)

- ア わるくない      イ よくない
- ウ ふつうでない      エ 思いがけない

(3) 「その時」とありますが、このときの様子が、具体的にえがかれているのはどこからですか。初めの三字を書きぬきなさい。(15点)

(4) 「なんとなくいけないもの」とありますが、鮎太がそう感じたのはなぜですか。記号で答えなさい。(15点)

ア よくないうわさを聞いていた上、初対面の印象が強かったから。  
 イ 大好きな祖母を、他の少女にとられてしまうと心配だったから。  
 ウ いなかで都会の少女がうまくやっていけるか心配だったから。  
 エ 祖母がこれまで冴子について何も話そうとしなかったから。

(5) 「うわさ」とは、どのようなうわさだと考えられますか。次の( )に入る言葉を、文章中から二字で書きぬきなさい。(15点)

● 女学校へ行っている冴子は( ) ( ) だということ。

(6) 「正面からぶつかるのをさけて」とありますが、なぜそうしたのですか。記号で答えなさい。(15点)

ア 気持ちよくハーモニカをふく少女をじゃましたくなかったから。  
 イ 本当にうわさの通りの少女なのか、たしかめたいと思ったから。  
 ウ 見かけない少女に話しかけ、友達になりたいと思ったから。  
 エ 見かけない少女をけいかいして、様子を見ようと思ったから。

(7) ( ) に入る言葉は、どれですか。記号で答えなさい。(15点)

- ア ちらりと      イ じいっと
- ウ うっかり      エ きよろきよろと

(5)	(2)	(1)	
		d	a
(6)	(3)		b
(7)	(4)		る
			c
			んで

42級  
2  
回目

# 実践問題

点

〈時間20分〉

学習した日 月 日

① 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

さて、<sup>①</sup>寸劇がはじまりました。

ピッキオの女性スタッフがハイカーの役です。男性スタッフがクマ役。

二つのパターンをやってみせて、子どもたちに答えてもらいます。ここは山のなか。クマに出会わないようにするには、どちらが正しいでしょう？

① ハイカーがひとり、音を立てないで、静かにゆっくり歩いていきます。

② ハイカーがひとり、<sup>②</sup>鈴を鳴らしながら歩いていきます。

さて、どちらでしょう？ みなさんもいっしょに考えてください。中部小学校の五年生の多くは、②と答えました。

さて、クマ役が出てきて、答えを出します。そうです。②が正解です。

クマは鈴の音をききつけて、人がいると知って、逃げてしまいました。

③、もしも、山でクマに出会ってしまったら、どうするか？

① 背中を向けて、走って逃げる。

② 背中を向けず、ゆっくりあとずさり。

そうです。②が正解。①では、クマが追いかけてきました。クマは、逃げるものを追う習性があるからです。

クマにあつたら、あわてない。さわがない。

走らない。ゆっくりあとずさり。このことをわすれないでね。

「クマにあつたら、死んだふり」と、むかしからよくききますが、

これは、④ことがクマを刺激しないということで、あるていど、きき目があるそうです。

クマの攻撃のほとんどは自分の身を守るための行動だといわれています。もし、子グマを見かけても、近づいたり、しゃんをとったりしてはいけません。近くに母グマがいて子どもを守ろうと攻撃してくるかもしれません。注意しながら、ゆっくり立ち去りましょう。

さて、キャンプをしたとき、どんなことに注意したらいいでしょう？ また、二つのシーンから選んでください。

① 女の子が、食べ物の包装袋をまわりにまきちらしています。そして、かたづけずに、そのまま寝てしまいました。

② 女の子は、食べ物の袋を決まった場所にかたつけてから寝ました。

教室では、生徒さんたちがわらっています。もちろん、②が正解ですよね。

何度もいっていますが、クマは鼻がいいのです。おいにさそわれて、ほら、クマがテントの近くまでやってきましたよ。

食べ物は、寝ている近くに置いたり、ちらかさしないで、きちんと

管理されている保管場所やゴミ箱に置きましよう。

(おわたまうこ) 太田京子 「人はクマと友だちになれるか？」より

\* 寸劇 ちよっとした、おしはい。

\* ハイカー ハイキングをする人。

(1) 線 a ~ d のひらがなを漢字に直し、漢字には読みがなを書きなさい。(5点×4)

(2) ㊦に入る言葉は、どれですか。記号で答えなさい。(5点)

ア だから イ なぜなら

ウ では エ それとも

(3) ① 「寸劇がはじまりました」とありますが、この寸劇にはどのようなねらいがありますか。記号で答えなさい。(15点)

ア クマと親しくなってほしいというねらい。

イ クマのせいしつを知ってもらうというねらい。

ウ クマのおそろしさを知ってもらうというねらい。

エ キャンプをしないでほしいというねらい。

(4) ② 「鈴を鳴らしながら歩いていきます」とありますが、こうするとクマはどうなるのですか。文章中から一文でさがし、初めの五字を書きなさい。(15点)

きぬきなさい。

(5) ③ 「背中を向けて、走って逃げる」とありますが、こうするとクマが追いかけてくるのはなぜですか。文章中から一文でさがし、初めの五字を書きなさい。(15点)

(6) ㊧に入る言葉は、どれですか。記号で答えなさい。(15点)

ア ゆっくりあとずさりする

イ 自分の身を守る

ウ 母グマかどうかをたしかめる

エ じっとして動かない

(7) キャンプをするときは、どのようなことに注意したらよいですか。その注意が書かれている一文を文章中からさがし、初めの五字を書きなさい。(15点)

(6)	(4)	(2)	(1)	
			d	a
(7)	(5)	(3)	らかさ	b
				c
				り